

労働人口等

新城市	総人口	労働力人口	就業者数	完全失業者数	第1次産業就業者数	第2次産業就業者数	第3次産業就業者数	雇用者数	役員数	雇人のある業主数	雇人のない業主数	家族従業者数	自市で従業している就業者数	ア		イ	
														他市区町村への通勤者数	従業地による就業者数	他市区町村からの通勤者数	ア-イ
H12	53,603	29,515	28,646	869	3,135	11,766	13,685	21,000	1,196	831	3,159	2,460	18,252	10,394	25,921	7,669	2,725
H17	52,178	28,723	27,572	1,151	2,875	10,731	13,888	20,474	1,020	803	3,082	2,191	19,895	7,677	25,613	5,718	1,959
H22	49,864	27,034	25,816	1,218	2,217	10,196	13,067	19,809	1,059	620	2,536	1,622	17,985	7,755	24,061	5,683	2,072
H22-H12	-3,739	-2,481	-2,830	349	-918	-1,570	-618	-1,191	-137	-211	-623	-838	-267	-2,639	-1,860	-1,986	-653

※H22 76名不詳

- ・新城市の就業者数は減少している。H12からH17では約1000人、H17からH22では約1700人減少。 出典：総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた」
- ・他市区町村への通勤者数がH17にかけて大幅に減少している。考えられる要因①他市区町村への通勤者が転出した②仕事をやめて市内に就職した
- ・自市で従業している就業者数がH17にかけて増加、その後減少している。H22、H12と比較すると、他市区町村への通勤者数の減少数と比べ自市で従業している就業者数の減少幅が低いいため、就業地による就業者数で自市の就業者が占める割合が高くなっている。

新城市の市町村内純生産（以後市内純生産）と市町村民所得（以後市民所得）

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
市内純生産	147,959	141,110	156,135	167,276	157,523	170,457	162,379	130,255	132,137	146,804	153,835	139,662
市民所得	148,275	145,071	142,579	146,959	138,765	132,350	135,281	125,752	118,809	116,741	120,785	132,720
市内純生産－市民所得	-316	-3,961	13,556	20,317	18,758	38,107	27,098	4,503	13,328	30,063	33,050	6,942
乖離率	-0.2%	-2.8%	8.7%	12.1%	11.9%	22.4%	16.7%	3.5%	10.1%	20.5%	21.5%	5.0%

単位（百万円）

所得の流出又は流入の状況を表すのは、市内純生産と市民所得（前回のGNI）の差。 出典：愛知県 市町村民所得 市町村内純生産

市内純生産の計算方法 市内総生産（前回のGDP）－固定資本減耗

市民所得の計算方法 市内純生産＋市外からの流入所得－市内から市外への流出所得

- ・市内純生産について：H13年度からは上昇傾向がみられる。H20年度にリーマンショックの影響で減少。その後持ち直すがH24年度に再び減少。
- ・市民所得について：徐々に減少傾向にあるがH23年度から再び増加傾向にある。減少理由については、市外への通勤者の減少が考えられる。しかし、他市からの通勤者数と比較して市外への通勤者数が多いことから基本的には、市民所得の方が高くなるべき。新城以外にも数市町村でこの傾向がみられた。

●市町村別一人当たり市町村民所得（分配）の推移（平成13-22年度）

表は、市町村別の一人当たり市町村民所得の上位5市町村と下位5市町村を平成13年度から平成22年度までの10年間の推移を示したものです。

上位も下位もあまり大きな入れ替わりはありませんが、平成22年度は上位に初めて武豊町と安城市の2市町村が入りました。飛島村は、常に1位か2位に入っていますが、県内1位になったことがある豊田市と田原市は、平成22年度は上位5位内に入りませんでした。

飛島村は製造と物流の2つの業態を中心に、企業が幅広く立地しており、好不況関係なく安定して上位に入っています。豊田市と田原町は、輸送機械工業中心の企業が立地しており、企業の業績によって大きく左右されることがわかります。

上位5市町村では飛島村が飛び抜けて高く、上位の中でも開きが大きいことがわかります。最上位と最下位との格差をみると、平成14年度から平成16年度までは徐々に格差が広がっていき、平成19年度は最大の4.9倍に格差が広がりました。景気後退期から景気の谷を経た平成20年度は3.0倍、平成22年度は3.1倍と格差が縮小しました。景気の拡大と同時に、所得格差が拡大していくことがうかがえます。

(単位：千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度										
上位5市町村	飛島村	6,501	豊田市	6,107	飛島村	6,189	飛島村	6,898	飛島村	8,359	飛島村	7,930	田原市	9,303	飛島村	5,109	飛島村	6,237	飛島村	5,029
	豊田市	5,118	飛島村	5,792	田原市	5,676	田原市	5,804	豊田市	5,832	豊田市	6,522	飛島村	8,193	田原市	4,864	みよし市	4,030	みよし市	4,358
	田原市	5,083	田原市	5,779	豊田市	5,386	豊田市	5,568	田原市	5,653	田原市	6,316	豊田市	7,313	豊田市	4,565	大口町	3,567	武豊町	3,452
	刈谷市	4,270	みよし市	5,080	みよし市	4,795	幸田町	5,029	みよし市	4,736	幸田町	4,757	みよし市	5,417	みよし市	4,460	東海市	3,499	刈谷市	3,415
	幸田町	4,190	刈谷市	4,351	幸田町	4,458	刈谷市	4,576	幸田町	4,727	東海市	4,683	大口町	5,396	大口町	3,799	豊田市	3,471	安城市	3,372
下位5市町村	新城市	2,806	新城市	2,761	新城市	2,713	美浜町	2,759	新城市	2,692	新城市	2,600	豊山町	2,584	新城市	2,502	新城市	2,380	南知多町	2,395
	設楽町	2,470	南知多町	2,472	南知多町	2,318	南知多町	2,363	南知多町	2,430	南知多町	2,514	南知多町	2,531	南知多町	2,447	南知多町	2,335	新城市	2,356
	南知多町	2,385	設楽町	2,389	設楽町	2,304	設楽町	2,260	設楽町	2,197	設楽町	2,215	設楽町	2,147	設楽町	1,988	設楽町	1,869	設楽町	1,947
	豊根村	2,195	豊根村	2,193	豊根村	2,126	豊根村	2,099	豊根村	2,166	豊根村	2,125	豊根村	1,957	東栄町	1,800	東栄町	1,731	東栄町	1,720
	東栄町	2,042	東栄町	2,031	東栄町	1,920	東栄町	1,954	東栄町	1,949	東栄町	1,869	東栄町	1,891	豊根村	1,730	豊根村	1,665	豊根村	1,626
愛知県	3,387	愛知県	3,412	愛知県	3,386	愛知県	3,490	愛知県	3,553	愛知県	3,647	愛知県	3,721	愛知県	3,172	愛知県	3,071	愛知県	3,035	
全国	2,883	全国	2,855	全国	2,883	全国	2,897	全国	2,928	全国	2,958	全国	2,978	全国	2,773	全国	2,689	全国	2,752	

資料：内閣府「国民経済計算」、県統計課「あいちの県民経済計算」、「あいちの市町村民所得」より作成

出典：愛知県 地域経済分析シリーズ 市町村民所得編